

武漢事務所週刊ニュース（2011年11月27日～12月3日）

大分市長が武漢を訪れ、漢街の建設状況を視察。阮成發書記が大分市長釘宮馨市長一行と会見。

2011年11月29日 長江日報

釘宮馨市長は次のように述べた。「武漢に来るたびに新たな良い変化に出会うことができる。武漢の潜在能力はとても大きく、武漢の未来は明るく、より発展していくだろう。大分と武漢の交流における合同事業も年々拡大している。両市が引き続き、手を取り合い、友好交流事業が発展していくことを願っている。」昨日の午前、釘宮馨市長は楚河漢街を見学し、「この壮大なプロジェクトに感嘆している」と感想を述べた。また、「漢街は人と車をセパレートしており、のんびりと観光可能な大きな歩行者天国を市民に提供している。この“人間本意”の理念は学ぶべきものであり、現在大分市で進めている大分駅のリニューアルなどのプロジェクトに漢街建設のノウハウを参考にしたい。」と述べた。

阮成發書記は釘宮馨市長一行の訪問を熱烈に歓迎した。阮成發書記は次のように述べた。「大分市は武漢市にとって最も早く友好都市を結んだ国際都市である。友好都市締結以来32年間、経済・貿易、文化、教育等の分野において交流事業を広く展開している。両市の今後の友好交流事業がより多くの成果を挙げるよう願っている」

阮成發書記は「楚河漢街は水質改善、湖沼の保全の重要な機能を有しており、環境保全は武漢市が行っている“両型（資源節約型と環境友好型）”社会の重要事業を推し進めている。大分市はこの分野における豊富なノウハウを有しているので、両市の環境保護分野の交流が活発になることを期待している。」と述べた。

武漢市共産党委員会が隔月で座談会を開催 東湖国家自主イノベーションモデル地区建設進展

2011年11月30日

昨日、武漢市共産党委員会が隔月で行う座談会を行った。共産党以外の人に対し東湖国家自主イノベーションモデル地区建設の進展状況について報告し、意見をヒアリングした。

東湖モデル地区が認可されて以来、体制の刷新、イノベーション能力の構築、

新興産業の発展などについて多くの改革刷新の措置がとられ、モデル地区の発展の度合いは良好である。今年の1月～10月期におけるモデル地区の最終的な収入額は3,105億元(=約3兆7,260億円)であり、前年の同時期に比べ30.13%の増加、最終財政投入額は106.88億元(=約1282.56億円)であり、前年の同時期に比べ31.3%の増加となっている。去年の科学技術部が発表している全国新ハイテク産業開発区の評価の中で、東湖モデル地区は総合順位5位の位置につけており、知識創造及び新しいものを創造する能力は4位である。

さらに、東湖モデル地区はまず実行することを政策として推進している。体制の機能についても、産官学の協働により変革を行い、資源を共に分かち合い、協働で新たなものを作り出す体制を整えている。モデル地区において新たなものを生み出す主体と要素の調和を進め、光電子情報産業の発展を優先させ、生物・環境の保護、エコ及びハイテク装備の製造など3つの大きな戦略性に富んだ新興産業を積極的に育て、近代サービス業を積極的に育成していき、“131”産業構造(1つのコア産業：光電子情報、3つの戦略産業：バイオ、環境保護エネルギー、ハイテク装備、1つの先導的産業：ハイテク技術サービス業)を打ち立てる。

座談会では、各民主党派、商工の責任者、無党派代表はそれぞれ、モデル地区における多くの投資及び投資の奨励システムにより、武漢“音楽の街”の建設することは、武漢文化のさらなる発展につながり、体制の刷新は科学技術の成果の転換などの問題に対する積極的な提言を促進できると評価した。